

検査情報月報



2014
5014

1 月

横浜市衛生研究所

平成26年1月号 目次

【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 ―平成25年6～10月―	1
残留農薬検査(その2)	3
畜産食品中の動物用医薬品検査結果(その2)	5

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成25年12月	7
-------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成25年12月分)	11
--------------------------------	----

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 －平成25年6～10月－

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として主に市内公園および港湾地区等において感染症媒介蚊生息状況調査を行っています。その地域特有の蚊の生息状況を把握しておくことは、ウエストナイル熱やデング熱等の蚊媒介感染症が発生した場合に、防除対策計画を立てるうえで重要な資料となります。平成25年度は、6月から10月にかけて横浜市内19か所（各10回）で、各区福祉保健センター生活衛生課と連携し、蚊成虫捕獲調査を行いました（図1）。調査には、CDC型バッテリー式ライトトラップという昆虫類を捕獲する機器を用いました（写真1）。蚊を誘引するためにドライアイス1kgをトラップ屋根付近に設置し、トラップを原則として一昼夜運転しました。捕獲された蚊は調査地点ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については後日、横浜市衛生研究所HPに掲載する予定です。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。



写真1 CDC型ライトトラップ

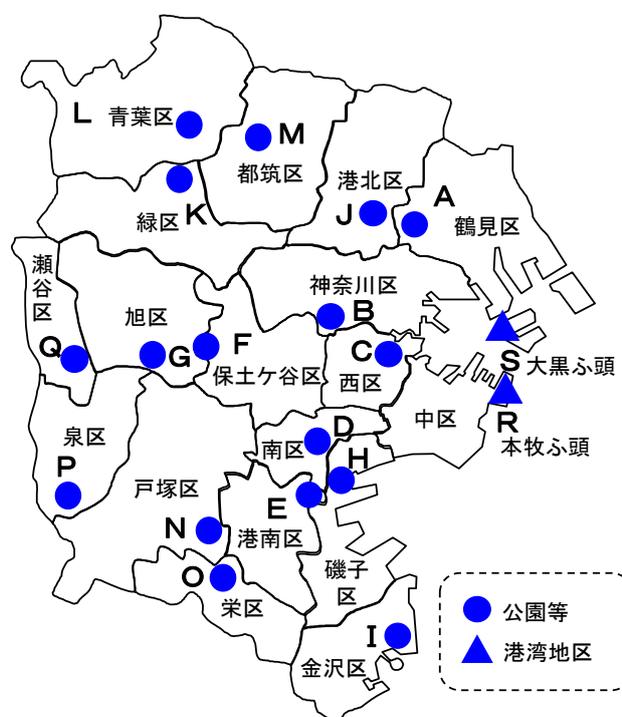


図1 蚊成虫捕獲調査地点

〈捕獲された蚊の種類と個体数〉

捕獲された蚊の種類と個体数を表1に示しました。捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、6属10種10,025個体でした。

最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ8,400個体(83.8%)でした。次いで、アカイエカ群*1が1,048個体(10.5%)でした。また、キンパラナガハシカが283個体(2.8%)、ヤマトヤブカが189個体(1.9%)捕獲されました。

*1:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれます。3亜種は外部形態だけでは、実体顕微鏡下での同定が難しいため、多くの調査ではアカイエカ群として扱われています。

表1 捕獲された蚊の種類と個体数

属	種	個体数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群	1,036	12	1,048	(10.5)
	コガタアカイエカ	10	0	10	(0.1)
	カラツイエカ	21	1	22	(0.2)
	トラフカクイカ	1	0	1	(0.01)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	7,663	737	8,400	(83.8)
	ヤマトヤブカ	184	5	189	(1.9)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	20	0	20	(0.2)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	215	68	283	(2.8)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	5	1	6	(0.06)
チビカ属	フタクロホシチビカ	4	2	6	(0.06)
その他 ^{*2}		39	1	40	(0.4)
合計		9,198	827	10,025	

*2:破損の激しいもの



アカイエカ群



ヒトスジシマカ

〈調査地点別の蚊捕獲数〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、磯子区内公園 (H) で1,285個体、次いで鶴見区内公園 (A) で1,252個体、鶴見区大黒ふ頭 (S) で1,120個体でした。一方最も少なかったのは、青葉区内施設 (L) で36個体でした。また、港湾地区の中区本牧ふ頭 (R) はアカイエカ群優占でしたが、その他の調査地点はヒトスジシマカ優占でした。

アカイエカ群とヒトスジシマカの生態は、検査情報月報2011年1月号「[横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果\(平成22年6～11月\)](#)」に掲載されています。参考にしてください。

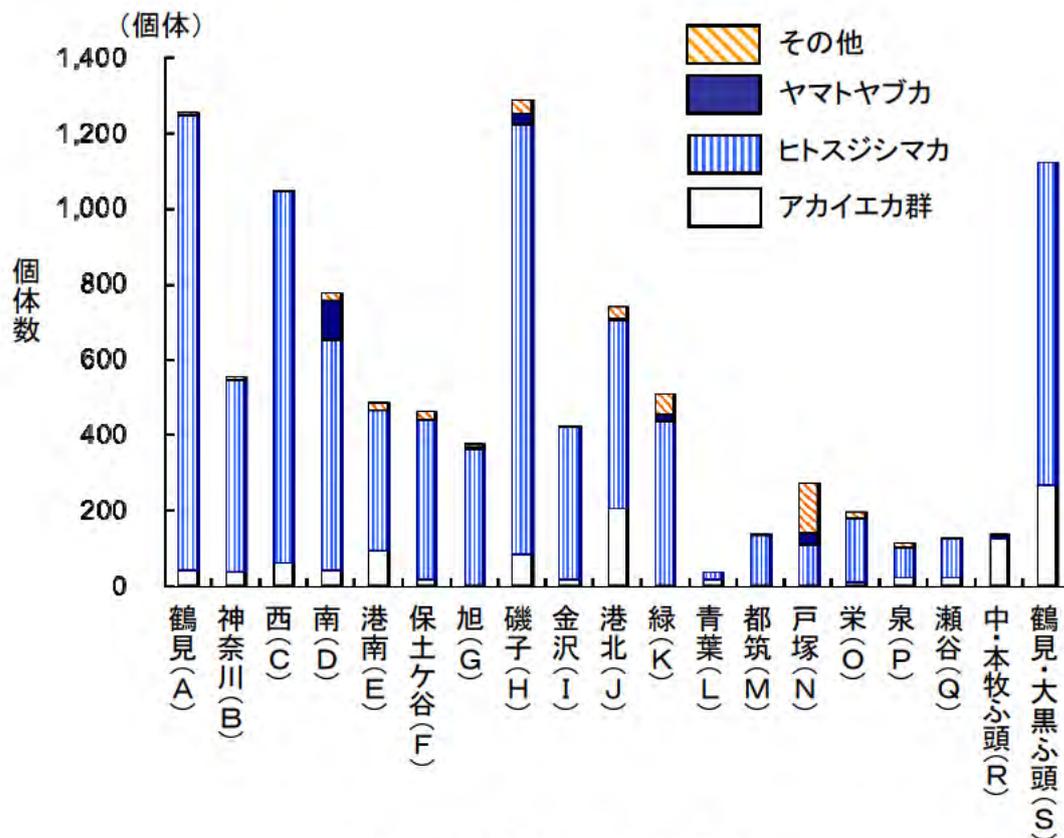


図2 調査地点別の蚊捕獲数

【 検査研究課 医動物担当 】

残留農薬検査(その2)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農産物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成25年10月から12月までに食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

11月に搬入されたかぶの根(2検体)、キャベツ(4検体)、こまつな(3検体)、さつまいも(1検体)、じゃがいも(1検体)、だいこんの根(2検体)、にんじん(1検体)、はくさい(2検体)、ブロッコリー(3検体)及びほうれんそう(3検体)、12月に搬入されたかぶの根(1検体)、しゅんぎく(1検体)、だいこんの根(3検体)、だいこんの葉(2検体)及びはくさい(3検体)の計32検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、だいこんの葉2検体、はくさい2検体及びほうれんそう2検体から計8種類10項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

10月に搬入されたかき、キャベツ、さつまいも、チンゲンサイ、トマト、日本なし、はくさい、ピーマン、ぶどう及びほうれんそう(各1検体)の計10検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、かき、日本なし、ぶどう及びほうれんそう各1検体から計8種類9項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H25年10月～H25年12月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かぶの根	横浜市	3	0			
キャベツ	横浜市	4	0			
こまつな	横浜市	3	0			
さつまいも	横浜市	1	0			
じゃがいも	横浜市	1	0			
しゅんぎく	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	5	0			
だいこんの葉	横浜市	2	1	{ BHC クロロフェナピル オキサミル クロチアニジン チアメキサム フルフェノクスロン	0.008	0.2
					0.09	3
					0.01	1.0
					0.01	5
					0.02	3
				0.02	10	
にんじん	横浜市	1	0			
はくさい	横浜市	5	1	アセタミプリド	0.04	0.5
			1	フルフェノクスロン	0.04	0.5
ブロッコリー	横浜市	3	0			
ほうれんそう	横浜市	3	1	イミダクロプリド	0.06	15
			1	フルフェノクスロン	0.03	10
国内産農産物						
かき	和歌山県	1	1	{ シペルメトリン テブコナゾール	0.03	2.0
					0.03	1
キャベツ	群馬県	1	0			
さつまいも	茨城県	1	0			
チンゲンサイ	茨城県	1	0			
トマト	茨城県	1	0			

表1 残留農薬検査結果 (続き)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
日本なし	福島県	1	1	クレソキシムメチル ペルメトリン	0.03	5
					0.20	2.0
はくさい	岩手県	1	0			
ピーマン	岩手県	1	0			
ぶどう	長野県	1	1	クロルフェナピル フルバリネート	0.01	5
					0.02	2.0
ほうれんそう	岩手県	1	1	クロチアニジン シペルメトリン フルフェノクスロン	0.05	3
					0.15	2.0
					0.38	10

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェニトロチオン	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和※)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンチオン	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェントエート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンピロキシメート	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	フェンプロバトリン	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタクロール	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメキサム	0.01	ブタミホス	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	ブプロフェジン	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルジオキシニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	フルシトリネート	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルトラニル	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	フルバリネート	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロシミドン	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロチオホス	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロパホス	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロピザミド	0.01
カフェンストール	0.01	デルタトリン及びトラロトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	プロモプロピレート	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ヘキサフルムロン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ヘプタクロル(エボキドを含む)	0.005
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ペルメトリン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	ホサロン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ビフェントリン	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	マラチオン	0.01
クロルプロファミ	0.01	ピラクロストロビン	0.01	マイクロブタニル	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メキシフェノジド	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メラクロール	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リニューロン	0.01
ジクロラン	0.01	ピリメタニル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジコホール	0.01	フェナリモル	0.01	ルフエヌロン	0.01

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

畜産食品中の動物用医薬品検査結果(その2)



当所では、横浜市内で入手することができる畜産食品に残留する動物用医薬品の検査を行っています。今回は、平成25年9月から11月までに食品専門監視班より搬入された畜産食品の検査結果を報告します。

9月には市内を流通している畜産食品12件(牛の筋肉3件、牛の脂肪3件、豚の筋肉3件、豚の脂肪3件)について、10月にはインターネットを通じて購入した畜産食品10件(牛の筋肉1件、牛の脂肪1件、豚の筋肉2件、豚の脂肪2件、羊の筋肉1件、羊の脂肪1件、七面鳥の筋肉1件、牛タン1件)について、11月には市内を流通している畜産食品8件(鶏の筋肉7件、鴨の筋肉1件)について、検査を行いました。

その結果、表1、2に示す通り、羊の脂肪1件からモキシデクチンが0.009ppm(基準値0.50ppm)検出されましたが、他の食品は全ての項目で不検出でした。

表1 動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界(筋肉)

検査項目	検査結果							検出限界
	牛の筋肉 4件	豚の筋肉 5件	羊の筋肉 1件	七面鳥の 筋肉 1件	牛タン 1件	鶏の筋肉 7件	鴨の筋肉 1件	
【合成抗菌剤】								
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルピフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフエニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【内寄生虫用剤】								
フルベンダゾール	-	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

表2 動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界(脂肪)

検査項目	検査結果			検出限界
	牛の脂肪 4件	豚の脂肪 5件	羊の脂肪 1件	
【内寄生虫用剤】				
イベルメクチン	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	N.D.	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	N.D.	N.D.	0.009	0.005

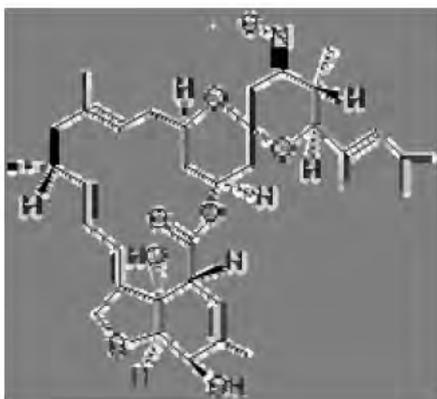
単位:ppm N.D.:不検出

【解説】

モキシデクチン

牛、羊及び鹿において、内部及び外部寄生虫の治療を目的とするマクロライド系の抗寄生虫薬剤であり、脂肪部に多く残留することが知られています。平成11年11月に残留基準値が設定されました。当所においては、牛の脂肪からH13年度に0.03ppm、H16年度に0.008ppm、平成22年度に0.01ppm、平成24年度に0.04ppm検出されています。

構造式



【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 12月

《今月のピックアップ》

- 感染性胃腸炎の流行警報が発令(警報発令基準値: 定点あたり 20.00 以上)されました。
- インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回りました。
- RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。
- 水痘の報告が増加しています。

全数把握疾患 12月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	5件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	風しん	1件

＜細菌性赤痢＞ *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件ありました。国内での感染が推定されています。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件の報告があり、3件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。

＜ウイルス性肝炎＞ 1件のB型肝炎の報告があり、国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞古典型 CJD の報告が1件ありました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞5件(AIDS 1件、無症状病原体保有者3件、その他1件)の報告がありました。AIDSの症例では、ニューモシスティス肺炎が認められ、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の3件とその他の1件は、いずれも同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞4件の報告がありました。1件は40歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、蜂窩織炎による右下肢の激痛が見られました。血清型は15型でした。もう1件は80歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱で、肺炎が認められました。血清型は19型でした。もう1件は女兒(ワクチン接種歴3回有り)で、症状は発熱と咳で、血清型は19型でした。残るもう1件は女兒(ワクチン接種歴4回有り)で、症状は発熱と全身倦怠感で、血清型は24型でした。

＜梅毒＞5件(早期顕症Ⅱ期2件、無症候期3件)の報告がありました。いずれも国内での性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞1件の30歳代男性の報告(ワクチン接種歴不明)がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

定点把握疾患 平成25年11月25日から平成25年12月22日まで
(平成25年第48週から平成25年第51週まで。ただし、性感染症については平成25年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第48週	11月25日～12月 1日
第49週	12月 2日～12月 8日
第50週	12月 9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

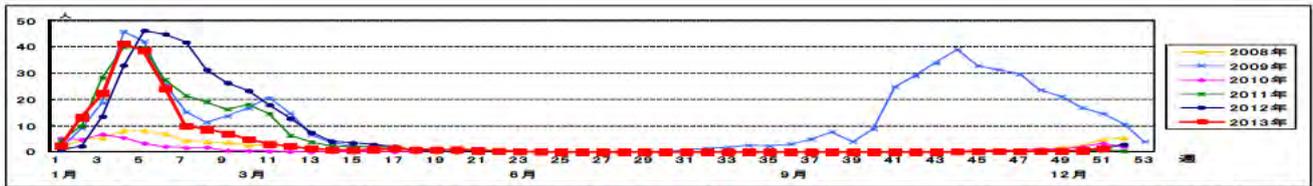
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

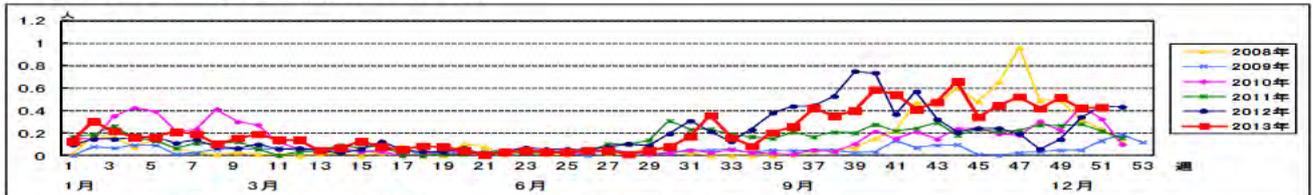
＜インフルエンザ＞第51週は市全体で定点あたり1.41と、流行開始の目安となる1.00を超えました。区別でも11区で1.00を上回りました。また、学級閉鎖(小学校学級)が第50週2件、第51週1件報告されています。迅速キットの結果では、今シーズン36週からの累計で、A型54.3%(188件)、B型45.7%(158件)となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果はAH3亜型(A香港型)8件、AH1pdm09が6件、B型(ビクトリア系統)5件です。[全国のウイルス検出状況](#)でも、AH3亜型(A香港型)、AH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(系統不明)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)

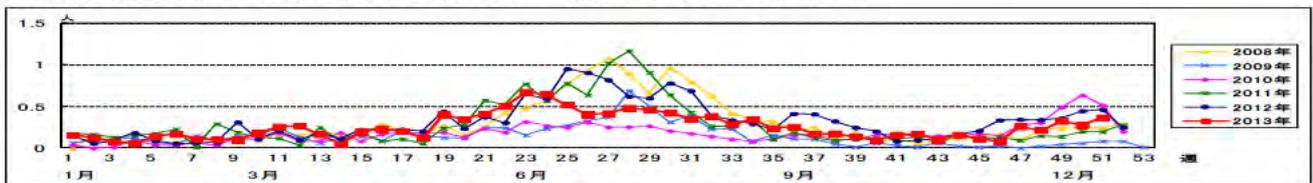
◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)



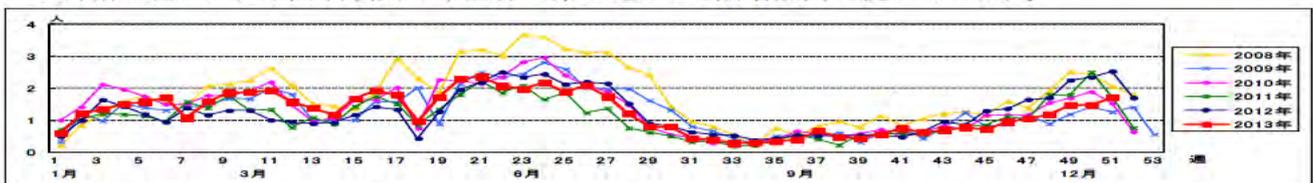
＜RSウイルス感染症＞市全体で第51週0.43と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。



＜咽頭結膜熱＞市全体で第51週0.37とやや報告が多くなっています。

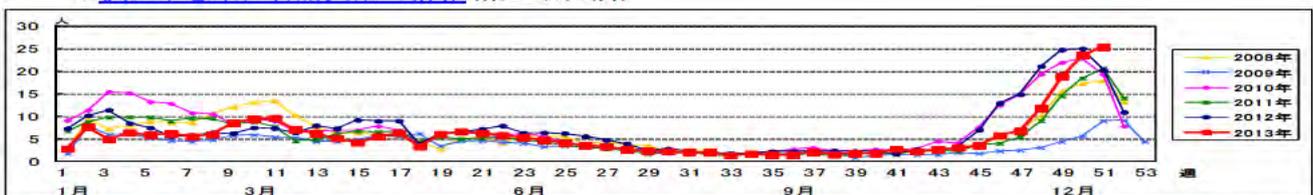


＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞市全体で第51週1.72と漸増傾向が続いています。

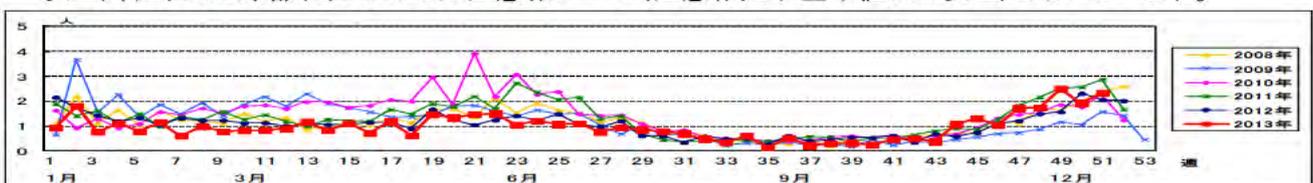


＜感染性胃腸炎＞市全体で第51週25.51と、2012年第50週25.11を上回り、過去5年間と比較して最も報告が多くなっています。区別でも16区で警報レベル(警報発令基準値:定点あたり20.00以上)となっています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報(衛生研究所)



＜水痘＞市全体で第51週2.34と報告が増加しており、瀬谷区11.50と警報レベル(警報発令基準値:7.00以上)、旭区4.83、都筑区4.33では注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)となっています。



＜性感染症＞11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第48週1.25、第49週0.75、第50週0.33、第51週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第50週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便5件)、内科定点10件(鼻咽頭ぬぐい液8件、ふん便1件、結膜ぬぐい液1件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点2件(鼻咽頭ぬぐい液1件、髄液1件、直腸ぬぐい液1件)で、定点外医療機関からは3件(鼻咽頭ぬぐい液3件、気管支吸引液1件、髄液1件、尿1件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎20人、下気道炎12人、胃腸炎5人、インフルエンザ(疑い含む)およびRSウイルス感染症各3人、アデノウイルス感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹症、りんご病各1人、内科定点は上気道炎3人、インフルエンザ(疑い含む)4人、胃腸炎2人、アデノウイルス感染症(疑い)1人、眼科定点は急性出血性結膜炎1人、基幹定点は手足口病(疑い)1人、ウイルス性髄膜炎(疑い)1人、定点外医療機関は無菌性髄膜炎1人、先天性風疹感染症1人、急性肺炎1人でした。

1月10日現在、小児科定点の下気道炎患者2人からアデノウイルス5型(RSウイルス遺伝子と重複1人、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス1型、ヒューマンボカウイルスの各遺伝子と重複1人)、内科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルス4型(ライノウイルス遺伝子と重複)、小児科定点の上気道炎患者2人、咽頭結膜熱患者1人、内科定点の上気道炎患者1人、アデノウイルス感染症患者1人、眼科定点の急性出血性結膜炎患者1人からアデノウイルス(型未同定、RSウイルス遺伝子と重複1人)、小児科定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスB型ビクトリア系統(RSウイルス遺伝子と重複1人)、1人からインフルエンザウイルスAH3型(アデノウイルス、パラインフルエンザウイルス1型の各遺伝子と重複)、内科定点のインフルエンザ患者1人と定点外医療機関の急性肺炎患者1人からインフルエンザAH1pdm09ウイルス、小児科定点の上気道炎患者1人からパラインフルエンザウイルス2型(RSウイルス遺伝子と重複)、上気道炎患者1人からコクサッキーウイルスB1型(ライノウイルス遺伝子と重複)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者4人からアデノウイルス、胃腸炎患者3人と内科定点の胃腸炎患者1人からノロウイルスG2型、小児科定点の上気道炎患者1人、RSウイルス感染症患者1人、内科定点の胃腸炎患者1人からRSウイルス、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からヒューマンコロナウイルス、上気道炎患者1人と下気道炎患者1人からライノウイルス、下気道炎患者1人とRSウイルス感染症患者1人からパラインフルエンザウイルス(3型1人、4型1人)、手足口病患者からコクサッキーウイルスA6型、下気道炎患者2人、RSウイルス感染症1人、アデノウイルス感染症1人からアデノウイルスとRSウイルス、上気道炎患者1人からアデノウイルス、パラインフルエンザウイルス2型、RSウイルス、ヒューマンコロナウイルス、上気道炎患者1人からアデノウイルスとパラインフルエンザウイルス3型、上気道炎患者1人からアデノウイルスとヒューマンコロナウイルス、下気道炎患者1人からアデノウイルス、パラインフルエンザウイルス2型、3型、RSウイルス、下気道炎患者1人からヒューマンボカウイルスとRSウイルス、下気道炎患者1人からヒューマンボカウイルス、RSウイルス、ライノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは3件あり、赤痢菌(*S.sonnei* I相)、腸管出血性大腸菌(O157:H-VT1)、*Campylobacter jejuni* がそれぞれ1件でした。

その他の感染症は小児科から5件、その他が9件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(12月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	12月			2013年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	9	3	5	102	90
菌種名						
赤痢菌			1		3	5
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			1		1	62
腸管毒素原性大腸菌					4	
チフス菌					4	3
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
カンピロバクター			1			6
不検出	0	9	0	4	68	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	12月			2013年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	0	9	64	29	163
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		2	1	
	T2			5		
	T4	1		11		
	T6			8		
	T12			4		
	T25	1		4		
	T28			3		
	T B3264	1		4		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌				1		2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		2	22
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌				2		4
肺炎球菌			7	5	4	29
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌			1	2	5	2
結核菌						10
緑膿菌						63
百日咳					3	1
その他					4	6
不検出	1	0	0	12	0	16

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成25年11月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成25年12月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成25年11月のアクセス件数、アクセス順位及び平成25年12月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成25年11月)

平成25年11月の総アクセス数は、184,062件でした。主な内訳は、感染症情報センター78.8%、食品衛生5.0%、保健情報5.2%、検査情報月報3.0%、生活環境衛生1.7%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成25年11月)

11月のアクセス順位(表1)は、第1位が「インフルエンザワクチンについて」、第2位が「咽頭結膜熱の届出基準」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

表1 平成25年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザワクチンについて	29,272
2	咽頭結膜熱の届出基準	6,036
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	5,174
4	チメロサルとワクチンについて	4,270
5	衛生研究所トップページ	3,719
6	感染症発生状況	3,554
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,459
8	ぎょう虫(蟯虫)症について	3,391
9	横浜市感染症情報センター	2,609
10	サイトメガロウイルス感染症について	2,453

データ提供:総務局IT活用推進課

11月の総アクセス数は、前月に比べ14%ほど増加しました。今月の1位は、先月と同様、「インフルエンザワクチンについて」でした。インフルエンザに感染している

人たちが始めてきており、今後の動向への関心の高さの表れと考えます。2位の「咽頭結膜熱の届出基準」ですが、11月に入り全国的に、咽頭結膜熱の報告が増加しました。3位の「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」は、従来からアクセス頻度の高い項目であります。

また、マイコプラズマ肺炎は、流行期に差し掛かってきており注意が必要です。アクセス順位は、13位でしたが、依然として年間を通じて多くなっています。

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成24年10月改訂

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「インフルエンザワクチンについて」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/influvaccine.html>

「咽頭結膜熱の届出基準」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/infection/pdf/kijun/go16.pdf>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成25年12月）

平成25年12月の問い合わせは、8件でした(表2)。

表2 平成25年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
定食屋の衛生面について	1	保土ヶ谷区生活衛生課食品衛生係
乳幼児の予防接種について	1	感染症・疫学情報課
掲載されている熱中症データの利用について	1	消防局救急課
HPへのリンクについて	1	感染症・疫学情報課
WEB記載内容(HIV感染症)について	1	感染症・疫学情報課
論文への統計情報の利用許可について	1	感染症・疫学情報課
予防接種(ヒブワクチン)について	1	感染症・疫学情報課
平成24年度横浜市「合計特殊出生率」について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成25年12月）

平成25年12月に追加・更新した主な記事は、15件でした(表3)。

表3 平成25年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 2日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月 5日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月 5日	横浜市インフルエンザ流行情報3号	掲載
12月 6日	ウイルス性出血熱について	更新
12月 6日	アルゼンチン出血熱について	掲載
12月 6日	アルゼンチンのこどもの定期予防接種について	掲載
12月12日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月12日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
12月16日	がん検診受診率(平成24年度)	掲載
12月17日	メキシコのこどもの定期予防接種について	掲載
12月19日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月19日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
12月25日	チリのこどもの定期予防接種について	掲載
12月26日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
12月26日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載

【 感染症・疫学情報課 】